

寄稿

# 持続可能な市民自治のまちを

おだわらを拓く力 加藤 憲一

昨年来、連日報道されて  
いる夕張市の財政破綻と、  
その後の窮状。小田原市も  
他人事ではありません。  
収入の柱である市民税や  
固定資産税など（地方税）  
が十年來減少傾向にある反  
面、福祉や医療分野などへ  
の支出（民生費）は確実に  
増加。また、市の借金であ  
る地方債の返済（公債費）  
も増え続けています。その  
間、教育費などが年々切  
り詰められています。



かとうけんいち：1964年小田原生まれ。  
小田原高校、京都大学法学部卒。経営  
戦略コンサルティング会社、民間教育  
団体、農業、オービックビル事務局長  
などを経て、現在有限会社あしがら総  
研代表。妻と子ども二人の4人家族。

要は、収入が増えず、経  
費はかさむ一方で、大切な  
分野への健全な支出がおろ  
そかになっている構図です。  
行政コスト削減を進め、  
不要不急の大型投資などを  
避けるのは当然ですが、本  
質的な解決は、私たち市民  
が力をつけ、市民ができる  
こと。市民がやってくれる  
地域づくりを集落単位で競  
わせる「町づくり運動会」  
の実施、などです。住民の  
力を引き出し、行政コスト  
を下げ、産業振興によつて  
町財政も潤す。今日日本で最  
も注目される町です。

典型的な高齢化と過疎の  
寒村を、葉っぱに着目した  
ビジネスで活性化させたこ  
とで有名な、徳島県上勝町。  
この町では、①町の資源を  
活かし産業を育て、住民を  
元気にする、②お年寄りが  
元気になり医療費が大幅に  
低下、③環境のまちづくり  
に向け住民が徹底してゴミ  
を分別、ゴミの収集・焼却  
コストを削減④住民主体の  
地域づくりを

その、人に投資をする。市民  
の力を育てる。市民の文化  
を育てる。窮地でこそ、大  
胆な戦略が必要なのです。  
ドイツの村おこしコンテ  
ストで見事奮闘を射止めた、  
南ドイツ・ゲルスバッハ村  
の村長さんが、2月8日小  
田原で講演をします。会場  
の仕事を守り、自治の力が  
溢れる村の取り組みに、ぜ  
ひ触れて頂ければ幸いです。  
持続可能な市民自治のま  
ち・小田原を創りましょう。

**おだわらを拓く力**  
（加藤けんいち後援会）  
代表／飯田 和  
小田原市栄町2-13-1-2F  
TEL 0465-21-5260  
http://www.katoken.info  
加藤憲一日記 更新中！